

授業科目名・形態	社会保障論 I	講義	必修・選択の別		選択
担当者氏名	中里 操・脇山 園恵	開講期	2年前期	単位数	2

【授業の主題】

本講義は、社会福祉関連の職務に於いて必須の基礎知識である社会保障制度について学ぶ。特に少子高齢化が進む社会の中で、生存権保障の理念を具体化した国民の生活を保障するセーフティネットとしての社会保障制度について解説する。少子高齢社会が抱える課題に対して社会保障はどのように応えていくのか新しい課題も生まれている。国民の健康で文化的な最低生活を保証するための制度が、なぜ必要なのか、どのような内容が求められるのか、制度の目的や機能について、またそれを実現するための具体的な方法と、課題や展望について解説する。

【到達目標】

1. 少子高齢化社会における社会保障の課題を理解する。
2. 社会保障の概念(理念、目的、機能・役割、実施方法等)とその発達過程を理解する。
3. 日本の社会保障制度の仕組みと財政構造を理解する。
4. 日本の社会保険制度とその具体的内容を理解する。
5. 諸外国の社会保障制度を理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 私たちの生活と社会保障の必要性 (中里)
- 第2回 日本国憲法と社会保障の理念 (中里)
- 第3回 社会保障の定義と目的、社会保障の機能(中里)
- 第4回 社会保障の歴史①(欧米における社会保障の必然性)(中里)
- 第5回 社会保障の歴史②(我が国の社会保障の歴史的発展)(中里)
- 第6回 社会保障の歴史③(日本型福祉と社会保障の変容)(中里)
- 第7回 社会保障制度の体系(中里)
- 第8回 社会保障制度の役割、機能と負担(中里)
- 第9回 社会保険の構造①(年金保険・医療保険)(脇山)
- 第10回 社会保険の構造②(介護保険・労働者関連保険)(脇山)
- 第11回 社会扶助の仕組み(公的扶助、社会扶助、社会福祉、社会保険と社会扶助の関係)(脇山)
- 第12回 社会保障の財源と費用①(社会保障費用の分析)(脇山)
- 第13回 社会保障の財源と費用②(社会保障と国民経済、保障と国民の費用負担率)(脇山)
- 第14回 年金制度の沿革と概要(脇山)
- 第15回 年金制度の課題と制度改正(脇山)

【授業実施方法】 基本的には講義形式で行う。

【授業準備】

前回の講義内容を復習復讐する。テキスト、配布資料等の講義予定箇所を読み専門用語概念などについて調べておく。疑問点を整備しておく。講義中に取り上げたテーマなどを自ら文献に当たるなどして確認する。社会福祉関連のニュースに関心を寄せ、目を通し自分なりの理解と説明ができる状態で主体的準備をする。

【主な関連する科目】 社会福祉概論、公的扶助論、福祉行財政と福祉計画

【教科書等】 社会福祉士養成講座編集委員会編『社会保障』(第6版)、中央法規

【参考文献】 適宜紹介する。

【成績評価方法】 授業への取り組み姿勢10%、提出レポート 30%、期試験成績60%の総合評価とする。

【学生へのメッセージ】

少子高齢化が急速に進む中、年々増加・膨張する社会保障費用は、社会福祉・年金制度・医療制度の現状維持を難しくしている。社会福祉については福祉改革による新しい福祉システムが造られてきた。次のステージとして、社会保障改革が進められている。こうした社会的背景の中で、社会保障制度のあり方について正しく認識し、判断していくためには、日常的に社会福祉・社会保障の関連領域まで含めて情報の収集と判断が求められる。社会福祉・社会保障を学び、習得した基礎的知識・技術を更に深めて、専門職として社会に還元するための実践学として積極的に学んでもらいたい。